

【水彩画クラブ27】卒業後8年目の活動 2020年8、9月

◇第163回活動:2020年8月22日(土) 午後1時から 川越西文化会館・創作室

川越西文化会館・創作室での活動:4回目が始まった。

冒頭にヌエックの状況について報告した。8月7日にヌエック・予約係に電話して、施設開放状況について電話で問い合わせた。結果は県とのベッド開放話し合いがまとまっておらず、次週に結果がはっきりする見通しとのことだった。

18日(火)の夕方5時頃に予約係:小澤さんから「9月から施設開放出来ることになりました。9月以降の予約受付を行います」とのことでした。会員の皆に確認し、改めて9月と10月の第二・第四月曜を予約することにした。



前回課題の『秋田・湯沢の桜』を白板に提示して、内ちゃん先生の講評を頂いた。「桜花先端部の白い花の表現が上手に仕上げられている」との好評のコメントをいただいた。

新たな課題『岩手・久慈湾海岸』の1回目が始まった。

各自自宅で、水張りしたウォーターフォード水彩紙にデッサンしてから、岩の水際に岩の形を意識しながらマスキングを施した。岩肌に見える白い水しぶきにもマスキングを施してきた。

1. 手前に見える岩肌の割れ目を描いていく。

- ① 水彩色鉛筆の黒色で、課題写真を見ながら夫々岩に見える我線を描いていく。
直ぐに、描いてきた我線をなぞるように小筆の水筆でにじませていく。

- ② 黒っぽい影のようにになっている岩肌に、同じ水彩色鉛筆の黒色で薄めに擦るように色をつけていき、直ぐに小筆の水筆で擦るように岩影の形になじませていく。
直ぐにドライヤーで十分に乾かしておく。

2. 岩の色を塗っていく。

- ① 岩の色をつくる。
 - a) うすい明るい黄土色 黄土色に橙色を混色し、水溶きしておく。
暗めの黄土色は、このつくった色に焦げ茶色、他に紫色などを混ぜて水溶きしておく。
 - b) 黒っぽい影色 焦げ茶色に黒色を混色してから、紫色を少し混ぜてから水溶きしておく。
直ぐにドライヤーで十分に乾かしておく。

3. 手前に見える岩に色を塗っていく。

- ① a色の明るい黄土色を小筆に取り、課題を見ながら明るい岩に塗っていく。
- ② 黒っぽい見えている影の部分に、b色の暗い色を小筆に取り、課題を見ながら影の岩肌に塗っていく。
直ぐにドライヤーで十分に乾かしておく。

※ 今日の活動はここまでで終わった。

4. 次回の活動予定

次回の活動日は9月28日(月):川越西文化会館・創作室での活動予定になっているが、ヌエックが9月から施設開放予定なので23日(日)に9月と10月の予約を申し込んだ。

予約した9月14日(月)・研修棟 207 号室が決定すれば次回活動日になる予約した9月14日(月)・研修棟207号室が決定すれば次回活動日になる。

- ① 日描いてきた手前の岩群を仕上げてくる。
- ② 手前に見える波打ち際のしぶきをマスキングしてくる。

注意点:岩の波際にマスキングペンで描くようにマスキングしていく。

青い波の際まで予め水を少し塗ってから、マスキングペンで白いしぶきを塗るようにマスキングしていく。

青い波際に見えるしぶきの流れを、課題を見ながら指先で方向に合わせてなでていく。

◇第164回活動:2020年9月14(月) 午後1時から ヌエック本館 美術・工芸室

ヌエックが9月から通常に開放されたが、コロナ禍の影響から6ヶ月も閉鎖されていたことから、多くの従業員が退社されたことから研修棟担当社員がほぼゼロとなった。

結果、いつも予約していた研修棟・207号室が使えず、本館の美術・工芸室が207号室と同額の使用料・864円で借りられることになった。

8月初めに9月と10月の活動場所を予約した。

9月	14日(月)	午後1時～5時	本館 美術・工芸室
	28日(月)	午後1時～5時	本館 試食室
10月	12日(月)	午後1時～5時	本館 美術・工芸室
	26日(月)	午後1時～5時	本館 試食室

課題『岩手・久慈湾海岸』の2回目が始まった。

各自仕上げてきた手前側の岩群に打ち寄せる海の波を描いていく。

各自宿題で、

- ① 手前の岩群と奥に見える岩群の左側を各自自宅で仕上げる。
- ② 岩に打ち寄せて帰ってくる波しぶきにマスキングをする。返ってくる波しぶきの端を指先で散らしておく。
- ③ 波間に見える白い筋のような波頭に、マスキングペンで描くようにマスキングしておく。

1. 手前と上部に見える波を描いていく。

- ① 青い海の色をつくる。

明青色と鮮青色、深青色をほぼ同量ずつ混色して海の色をつくる。水を多めにして淡い目に水溶きしておく。

- ② 海の部分にハケで水を少し多めに塗ってから、大きめの平筆に①の海色を取り、海部分にサーッと塗っていく。ムラにならないよう気を付けて海全体を少し淡い目に塗っていく。

左側奥の海部分にも先にハケで水を塗ってから、青い海部分に少し大きめの小筆でムラにならないように少し淡い目に塗っていく。

- ③ ドライヤーで十分に乾かしてから、白っぽく見える海の部分にダブルマスキングをしていく。

白っぽく見えるところの周囲に水筆で水を塗ってから、マスキングペンで白っぽく見える所にマスキングしていく。その周囲を水筆でぼかしていく。

- ④ 施してきたダブルマスキングをドライヤーで十分に乾かしてから、青が濃い目に見える所に塗っていく。

- 1) ①項でつくった色を水溶きを少し少なめにした濃い目の海色を中筆に取り、課題を見ながら濃い目に見える所に予め水を塗ってから海色を塗っていく。

塗ってきた濃い目の青色の周囲を、水筆で馴染ませていく。

- 2) 課題下の方に見える白っぽい淡い海面の周囲を塗ってから、境い目を水筆で周囲を水筆でぼかしていく。

- ⑤ 左側上部の海面も同じ描き方で海面を塗っていく。

※ 今日の活動はここまでで終了した。各自海面の所を次回までに仕上げてくる。

2. 次回(9月28日(月))の活動予定 ヌエック本館 試食室

次回の習作は、奥の岩と影を描いて仕上げていく。

◇ 5ヶ月振りにヌエックに戻ってきた。受付で新型コロナウイルス感染防止に係る書類提示を求められた。

- ① 参加者名簿の作成

参加者名、咳の有無、体温測定、マスク所持の有無、連絡先(携帯電話番号)

- ② 利用者書類

利用団体名:水彩画クラブ27 代表者名 連絡先 などの記載

- ③ ドアノブ、蛇口、テーブルなど人の手が触る所を、手渡されたアルコールで拭き取りを求められた。

◇第165回活動:2020年9月28(月) 午後1時から ヌエック本館 美術・工芸室

11月開催の第8回美術展、クラブ員に”受付当番”希望日を記入してもらった。また、他クラブ(篆刻、写真、書)にも協力を要請した。

課題『岩手・久慈湾海岸』の3回目が始まった。各自自宅で、手前と奥右側の海を

1. 奥正面の岩肌を描いていく。

- ① 水彩色鉛筆の黒色で、岩肌に見える割れ目線を、課題を見ながら薄目に擦るように色をつけていく。

- ② 水溶きし黒色を小筆に取り、黒の色鉛筆で描いた割れ目上をチョンチョンとなぞりながら描いていく。

③ 肌を塗っていくので、周囲の白っぽく見える岩などにマスキングを施していき、直ぐにドライヤーで十分に乾かしておく。

④ 岩影の色をつくる。

水溶きした黒色に、紫色と鮮青色などの青色を少しずつ混色して、多めに水溶きしておく。

⑤ 岩肌面にハケで水をサーッと塗ってから、大きめの平筆に③の色を含ませ、淡い目に塗っていく。直ぐにドライヤーで十分に乾かしておく。

2. 後ろの黒っぽい岩影を描いていく。

① 奥の海際や正面の白っぽく見える岩にマスキングを施していき、直ぐにドライヤーで十分に乾かしておく。

② 黒っぽく見える岩影を塗っていく。

焦げ茶色に黒色を混色してから、紫色と青色を少しずつ混色して水溶きしておく。

③ 小筆に②の黒っぽい影色を取り、奥の黒く見える岩影に塗っていく。

直ぐにドライヤーで十分に乾かしておく。

※ 今日の活動はここまでで終了した。各自白っぽく見える岩を塗って仕上げている。

4. 次回(10月12日(月))の活動予定 ヌエック本館／美術・工芸室

次回から”自分の風景”を描いていく。

① 自分の風景写真を用意して手本台をつくる。

② 水張りしたウォーターフォード水彩紙(F8)に水張りする。

③ 自分の風景をデッサンしてくる。

※ 新型コロナウイルス感染防止対策に係る書類と体温計、アルコール液

① 感染症対策チェックシート

* 表面は防止対策に係る説明文が、裏面に

利用団体名:水彩画クラブ27 代表者名 連絡先 などの記載

* 裏面は、出席者名記載表がある。

出席者名、咳の有無、体温測定、体調、マスクの有無など

② 消毒作業チェックリスト(アルコール消毒の確認)

ドアノブ、スイッチ(照明、冷暖房)、備品など人が触れた所